

3 まとめ

I. 回答者の属性について

本調査の回答者については、女性の回答が男性よりも多くなっており、年齢については「71歳以上」が18.4%と最も高く、次いで「66～70歳」が12.6%、「61～65歳」が9.9%と回答者全体の約4割（40.9%）が61歳以上となっている。

居住地区については、「馴染小学校区」が15.3%で最も高く、次いで「八原小学校区」が13.7%、「龍ヶ崎小学校区」が10.8%、「久保台小学校区」が8.7%、「松葉小学校区」が8.1%の順となっている。

居住年数については、「20年以上」が67.5%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が19.1%と、居住年数が10年以上の人が回答者全体の約9割（86.6%）を占めている。

前住地については、「茨城県内（龍ヶ崎市以外）」が30.1%と最も高く、次いで「ずっと龍ヶ崎市」が24.4%、「千葉県」が14.7%となっており、回答者全体の約7割（69.2%）が市外からの転入者となっている。

II. 市全体の印象について

龍ヶ崎市の住み心地やまちへの愛着については、前回調査（平成28年度）に比べて住みよいと感じている人（「住みよい」・「どちらかといえば住みよい」）は1.2ポイント低く、まちへの愛着（「いつも感じている」）では0.5ポイント低くなっている。

また、龍ヶ崎市の良いところ、好きなどころでは「豊かな自然がある」「災害の危険性が少ない」「買い物などの日常生活が便利である」「落ち着きと安らぎがある」が上位に挙げられており、こうした豊かな自然環境や生活環境の良さが住み心地や愛着につながっていると考えられる。その一方で、龍ヶ崎市の足りないところ、嫌いなどころでは「交通の便が悪い」「将来の発展が期待できない」「活気とにぎわいが無い」「都市としての個性や特徴がない」が上位に挙げられており、自由意見においてもこれらに対する意見が寄せられていることから、今後も継続して対応していく必要がある。

龍ヶ崎市への定住意向については、住み続けたいという人は平成22年度の調査以降、約8割で推移しており、今回調査では、前回調査（平成28年度）に比べて、ほぼ変動はない（0.1ポイント増）。龍ヶ崎市の魅力については、魅力あるまちになってきたと感じる人は約3割（32.9%）となっており、前回調査（平成28年度）に比べて、5.9ポイント高くなっている。年齢別では26～45歳の各年齢層において、居住地区では八原小学校区、城ノ内小学校区においてその割合が高くなっている。問19の一番好きな場所やモノでも「龍ヶ岡公園」「たつのこアリーナ」「たつのこまち龍ヶ崎モール」が上位に挙げられており、同地区周辺に立地するこれらの施設が子育て世代に特に評価されているものと考えられる。

市全体の印象については、評価が低い（足りないところ・嫌いなどころ）項目に対する取組を進めていくとともに、評価が高い項目である豊かな自然環境や、地域の安全性、日常生活での利便性を維持するとともに、より一層の向上を図ることで、龍ヶ崎市としての魅力や愛着を高めていき、市民が住み続けたい、市外の人々が龍ヶ崎市に住みたいと思える環境づくりを進めていく必要がある。今後、佐貫駅の駅名改称や道の駅の整備が予定されており、これらも含めた諸施策の展開を通じて、龍ヶ崎市の発展へと着実に繋げていく必要がある。

Ⅲ. 龍ケ崎市での暮らしについて

龍ケ崎市での暮らしにおいて、不満度の高い項目は「鉄道やバスなど公共交通機関の利便性」「見どころ・楽しみどこの発掘など観光の振興」「街並みの美しさ」「市街地の整備」「路上駐車や放置自転車対策」となっており、前回調査（平成 28 年度）と比べて、上位に挙げられている項目に変化はみられない。

また、今後、優先的・重点的に取り組むべき項目では「病院・医院の数と夜間・休日などの医療サービス体制」「鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性」「台風や地震など自然災害への対策」「お年寄りが生活しやすい施設・サービス」「犯罪や非行防止などの治安対策」となっており、こちらも前回調査（平成 28 年度）と比べて、上位に挙げられている項目に変化はみられない。

今回調査で得られた各項目に対する満足度や不満度、優先度・重点度を踏まえながら、施策や事業等を展開していく必要がある。

現在の暮らしのなかでの不安については、前回調査（平成 28 年度）と同様、「自分の老後・将来」が第 1 位となっており、次いで「水害や地震などの自然災害」「自分や家族の健康」「安定した収入の確保」となっている。各種福祉サービスによる支援や、地域コミュニティの活性化、雇用の創出等を図り、あらゆる市民が安心して、日常生活を送ることができるよう、適切な支援等を行うためにも求められているニーズを的確に把握していく必要がある。

Ⅳ. 龍ケ崎市のまちづくりについて

龍ケ崎市は子育てしやすいまちであるかについては、子育てしやすいと感じている人は約 4 割（42.8%）となっており、子育てしにくいと感じている人は約 1 割（11.1%）となっている。

市民活動やボランティア活動への参加については、「清掃・環境美化活動」が最も高く、次いで「区・自治会・町内会等の活動」「子ども会活動」となっている一方で、「参加したことがない」は約 2 割（23.1%）を占めている。また、そのような活動の推奨度については、NPS でマイナス 40.9 となっており、「市民活動日本一」を目指していく上での課題の一つであると考えられる。

龍ケ崎市が将来的にはどのようなまちであってほしいかについては、「みんなが最後まで自分らしく暮らせる医療体制や福祉サービスが充実したまち」の割合が最も高く、龍ケ崎市が優先的・重点的に取り組むべき項目で上位に挙げられていた項目との関連性がみられる。

佐貫駅東口ロータリーに対する満足度では、不満が大きく上回る結果となっているが、不満である理由としては、通勤・通学時間帯の混雑や、バスやタクシーの車線や停車位置等による不満が多くみられた。これらは満足としている人にも一部同様の意見がみられる。

龍ケ崎市の主要施策・事業の認知度については、特に認知度の低い結果となったものは、各施策等の認知度向上策に早急に取り組むとともに、その施策等がより実のあるものとなるよう、手法や内容等について、見直しを検討する必要がある。

まちの魅力の推奨度については、NPS でマイナス 52.9 となっており、魅力の発信や見せ方、広がりについて大きな課題があると考えられる。まちへの愛着度や主要施策等とのクロス集計からも、愛着度や施策等の満足度が高い状況であっても、まちの魅力を勧めない（非推奨）としている割合が高く、満足度の高まりをどのように効果的に外部へ伝えていくかについて早急に検討する必要がある。また、施策等の実施においては、推奨度が高まるような内容となるように確実に意識していく必要がある。

V. その他、個別の課題について

●市役所からの情報発信について

市役所からの情報発信については、約6割(58.6%)の人が必要とする情報は得られていると感じている。情報を得る手段は、広報龍ヶ崎「りゅうほー」が9割(93.3%)を超え、記事の内容や見やすさについては、約4割(43.1%)の人が満足していると回答している。

市公式ホームページについては、「見たことがない」人が約4割(43.6%)を占めている。市公式ホームページの閲覧の際に利用する端末としては「スマートフォン」と回答する人が約5割(52.5%)となっている。今後もスマートフォンの普及により、身近な情報取得ツールとして活用されることが予測されることから、市役所からの情報発信においては、市民が必要な情報をタイムリーに受け取る手段として、「メール配信サービスの充実」や「フェイスブック・ツイッターなどSNSの充実」など、現時点での割合は低いものの、経年的には増加していくことが予測されることから、情報の内容に応じた情報発信の形態を検討していく必要がある。

●流通経済大学との連携事業(龍・流連携事業)について

龍・流連携事業については、実際に連携事業に参加した割合は低いものの、連携事業を推進していることに対する認知度は約4割(41.0%)となっており、前回調査(平成28年度)と比べて、4.1ポイント高くなっていることから、着実に根付いていっているものと考えられる。連携の充実には、市民向けの公開講座の充実や教育環境の充実に向けた支援、施設の開放等について関心が高いことから、市民への情報提供を通じて、参加を促していく必要がある。

●公共交通について

外出する際の交通手段については、「自動車(自分で運転)」が最も高く、約8割(78.8%)であることを筆頭に、次いで「鉄道(JR)」が約4割(41.6%)となっており、「自動車(家族が運転)」「徒歩」「自転車」「民間路線バス」がそれぞれ約2割で、その他の交通手段は1割より低くなっている。

公共交通を利用しない理由、利用する人が不満や不便に感じることについては、「便数が少なく乗りたい時間に運行していない」が最も高く、次いで「他の手段(自動車・バイク等)が便利」となっている。学生や高齢者においては、公共交通の利用率が高いことから、スムーズな利用が促進される整備が必要であるとともに、県内外からの来訪者にとっても利用しやすい公共交通の形態が何なのかを十分に分析・検討した上で、より効率的・効果的な公共交通網を構築していく必要がある。

●安全・安心について

地域の治安に不安を抱えている状況については、「不安を感じる」が「不安を感じない」を上回り、不安を感じる点については、「防犯灯が少ない、暗い」が最も高く、次いで「交番・駐在所が近くにない」、「近所で不審者情報が多い」となっている。これらの項目は自由意見でも多くみられた意見であることから、地域の防犯体制の強化を図るとともに、不審者情報のメール配信やパトロールの強化など、夜間の安全面への対策を講じていく必要がある。

●市役所の利便性と市職員の接遇などについて

1年以内に市役所を利用したり、電話で問合せをしたことがあるかについては、「ある」が約8割(79.0%)となっている。市職員の対応、市職員の身だしなみについては、良い(「非常に良い」・「良い」と感じている人は約7割となっている。

市役所を利用する際、どのような点で不便を感じるかについては、「どの課が何を担当しているのか分かりにくい」「開庁時間が短い」「市役所(出張所を含む。)の場所・交通アクセスが悪い」が上位に挙げられている。市民の来庁時には、分かりやすい案内に努めるとともに、利用者のニーズに応じた開庁時間の設定などが求められていると考えられる。